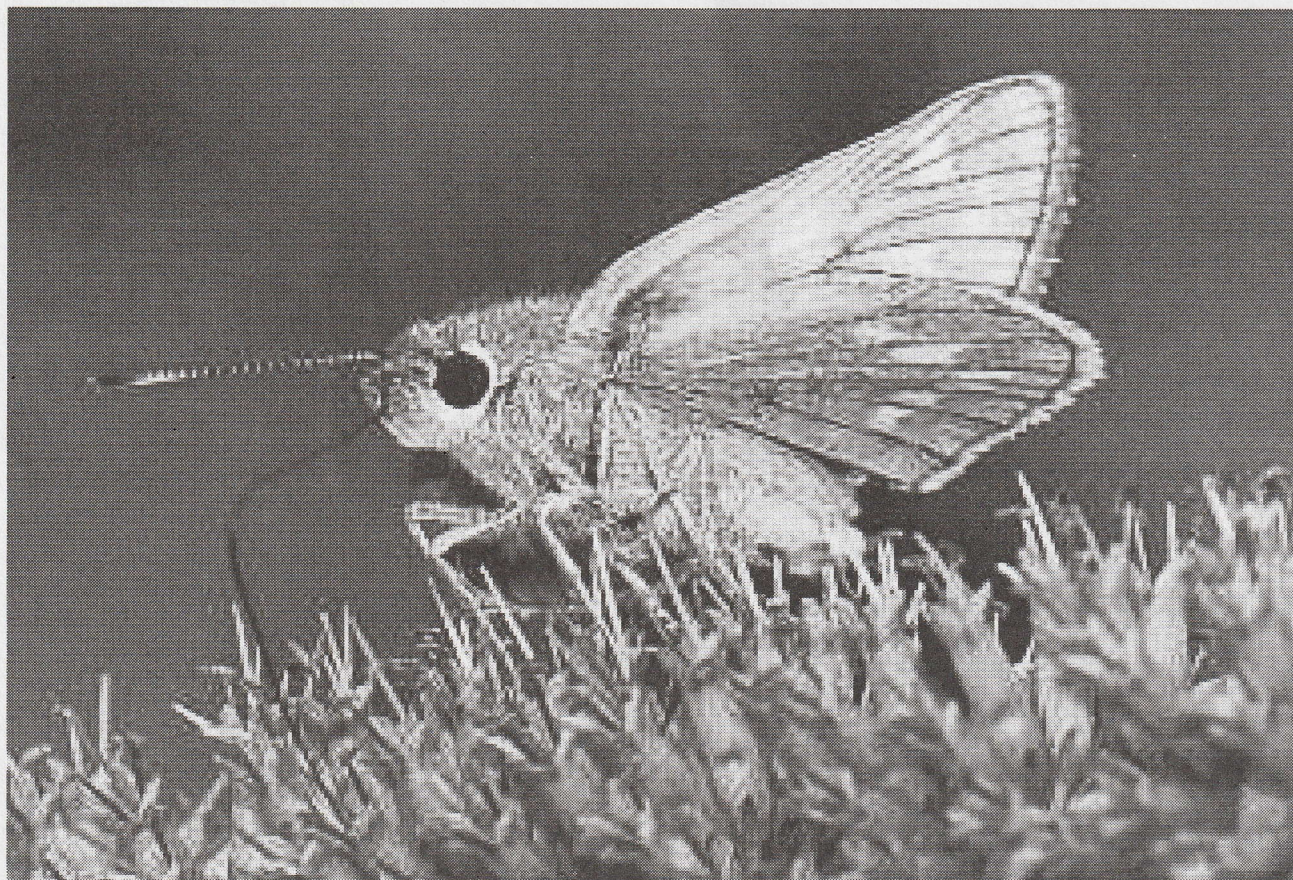


協議会ニュース

No. **166**

2020.03



Contents

02 通常総会・講演会 (3/20)	事務局
03 アクションプラン	事務局
04 協議会交流の日の報告 (11/04)	名古屋支部 黒宮 茂
05 生物分類(植物)研修会報告 (11/30)	尾張支部 山田 博一
06 指導員全国大会報告 (1/25~26)	名古屋支部 浅井・石原
07 私の活動紹介	名古屋支部 小笠原芳夫
08 支部総会報告	尾張支部 松尾 初
指導員全国大会分科会報告	尾張支部 山田 博一
09 理事会報告④11/23	事務局
10 新指導員紹介/事務局だより/編集後記	事務局

今号の表紙

「セセリチョウの仲間」 山田 博一（尾張支部）
続けて生き物アップの写真大募集！

令和2年度

通常総会 ・ 記念講演会

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を下記の通り開催いたします。総会は一年を振り返り、新たな年度の事業などを決定します。日頃出会う機会の少ない遠方の会員の皆様との交流の場にもなります。皆様、是非ご参加ください。

日時：令和2年3月20日（金・春分の日）13:20～16:20 受付:13:00～

場所：中小企業振興会館 4F第3会議室 Tel(052)-735-2111

名古屋市中種区吹上2丁目6-3

地下鉄桜通線「吹上」5番出口から徒歩5分

名れをご持参
ください

次第：

13:00 受付開始

13:20 令和2年度通常総会開会宣言

- 1) 総会参加者数の報告
- 2) 令和2年度の協議会各理事紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 総会議長、書記の選出
- 5) 総会議事

①第1号議案 令和元年度事業報告

②第2号議案 令和元年度決算報告 監査報告

③第3号議案 新役員承認

④第4号議案 令和2年度事業計画(案)

⑤第5号議案 令和2年度予算(案)

⑥質疑応答・その他

14:20 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

14:30 講演会・意見交換会

講師：川田 伸一郎氏 国立科学博物館

脊椎動物研究グループ主幹

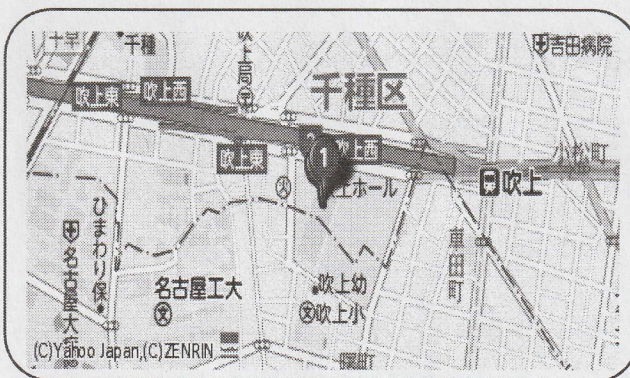
演題：「モグラの分類と生態」

【プロフィール】

名古屋大学博士課程修了(農学博士)。貧乏なオーバードクター生活を経て2005年から国立科学博物館動物研究部の哺乳類担当。著書として「モグラ博士のモグラの話」・「モグラ、見えないものへの探求心」・「はじめましてモグラくん」がある。2018年に監修した科学絵本「もぐらはすごい」が第24回日本絵本賞大賞を受賞。また、月刊誌「ソトコト」にコラム「標本バカ」を連載中。

16:20 閉会・後片付け

総会終了後、講師を囲んで懇親会 浩養園 会費4,200円 (懇親会の希望者は3月18日(水)までに事務局に連絡のこと)



川田伸一郎氏

講演会は、県協議会会員
と関係者の方のみです。

アクションプラン

①次世代育成のための指導員リーダー養成講習会

②豊橋市表浜海岸自然観察会

事務局

① 名古屋市内の中学2年生は、豊田市稲武にある「野外教育センター」で野外研修を行っています。自然に触れ合う機会の少ない都会の子どもたちに自然のすばらしさを体験してもらうためには、稲武の森の案内人としての資質が必要となります。「自然は学びの宝庫」です。見つける、触れる、参加者とともに楽しみ、相手の発見、発言を活かすことも大切です。

この野外研修に毎年いくつかの中学校から指導員の依頼が来ています。1班10名ほどのグループで稲武野外教育センター第1本館から記念碑・面ノ木園地までの散策道4.0kmを、樹木に触れたり、匂いを嗅いだり、じっくり見るなど五感を使って歩きます。面ノ木園地では、振り返りをします。自然の不思議、命の大切さを感じてもらう企画です。

自然と人、人と人がつながり、一人でも多くの子どもたちに、自然のすばらしさを伝えるために案内人になりませんか。次世代育成のための指導員リーダー養成講習会を企画しました。5月16日(土)か15日(金)地下鉄本郷駅北側市バスターミナル道路を隔てた北側に8:00集合。マイクロバスで行きます。途中、もよりの駅に寄ることも可能です。参加費は無料。定員20名、新人指導員、ベテラン指導員を募集します。今のところ今年度について中学校からの自然観察の依頼は、ありませんが、学校から依頼があり、都合がつけば、観察会に参加していただきます。

事務局からは、森の役割、人工林の放置の問題、ブナ林の現況などの資料を用意します。この講習会は、新人の指導員にはもってこいの研修となります。リーダーとしての見識も深まります。是非、次世代育成事業にご参加ください。

② 県協議会では昨年10月19日(土)~20日(日)に自然観察指導員研修会「砂浜しどういんサミット」を豊橋市の表浜で開催しました。会場の「表浜まるごと博物館」はNPO法人表浜ネットワークが運営する施設で、民家を改造した施設には砂浜の仕組みが書かれたポスターや本、海洋ごみや貝類の標本などが展示されています。地元の高校生がビーチグラスや流木でつくった作品も飾られていて、地域の方の交流場所にもなっている素敵な空間です。地元愛知(事務局他)、神奈川、三重、大阪、徳島、愛媛などから参加者を迎え、砂浜の植生、スナガニ、砂と波の波動などに注目し、現場で学んだ2日間でした。最後に一人ずつ、砂浜の保護を進めるための「砂浜宣言」を発表しました。

本年度県協議会は、自然観察会を開催し、「砂浜の保護」をアピールしたいと地元東三河支部に呼びかけたところ、東三河の理事会で、5月31日(日)の表浜観察会が承認されました。

当日は、伊古部笹百合保存会による伊古部笹百合の里で、ささゆり祭りが開催され、豊橋鉄道渥美線の大清水駅からシャトルバスの運行があります。東三河の会員は、豊橋市立野外教育センター駐車場か豊橋市立高豊中学校の駐車場を借りる予定です。一般参加者は伊古部笹百合の里に9時30分集合です。笹百合もちろんですが、海食崖の植物やハチジョウススキ、海浜植物も十分に楽しめ、表浜の雄大さや、安政地震での津波の被害の遺構なども観察できます。

詳細は、後日、連絡をします。



スナガニ▲

協議会交流の日の報告

名古屋支部 黒宮 茂

気持ちの良い秋晴れの休日に名古屋の庄内緑地公園に集合し、新指導員歓迎会を兼ねて協議会交流会を行いました。お昼には、美味しい豚汁を食べたり、落ち葉のステンドグラスを作ったり、楽しく有意義な一日を過ごしました。

【交流会の内容】

1. 日時、場所：11月4日（月）、庄内緑地公園
2. 参加者：34名（内、新指導員12名）
3. 午前の部（自然観察会）

テーマは「どんぐり観察」で、案内は庄内緑地ネイチャーフィーリングの皆さんです。最初に、どんぐりの見分け方のレクチャーを受けました。パンツ（殻斗）のデザイン、おしりの形、どんぐりの形、木の葉等から見分けます。

その後、二班に分かれてどんぐり観察を行いました。事前に作成して頂いた「どんぐりマップ」を持って出発しました。スダジイやウバメガシ、マテバシイは分かりやすいのですが、シラカシとウラジロカシのように、なかなか区別が難しいものもあり、木の葉も観察しつつ皆でわいわい言いながら散策しました。途中、「可食どんぐりのスダジイを食べてみましょう！」ということで食べてみましたが、甘みのない栗のようでした。

どんぐり以外にも、楠、椿等、色々な木に実がなっていました。楠は、落ちている枝を拾って、枝を折り 匂いをかいでみるとリラックス効果がありそうな良い香りがしました（昔 懐かしい昭和のタンスの匂いでもあります）。実も同様に良い香りですが、食べてみると苦いだけでした。ネイチャーフィーリングの方が、「アボガドはクスノキ科なので、楠の実を食べるとアボガドの味を感じるかも？」、と言っていました。残念ながら苦いだけでした（熟してなかったのかな？）。皆さん、「味わう」を含めしっかり五感で自然を感じていたと思います。

4. 午後の部

- （1）新指導員紹介
- （2）支部活動紹介
- （3）講話：自然観察の七つ道具（山田さん）

何も無しにどこまでできるか、いつでもどこでも小さな観察会ができることが基本。そうは言っても、有れば役立つ道具を紹介。ショルダーバッグ（道具や標本を取り出し易い）、ミニホワイトボード（書いたり消したりできる）、ペンケース（ハサミやピンセットも入る）、ミラー（太陽光をポインター代わりに利用できる）、手作り図鑑（スマホより便利）等々。日頃から役に立ちそうなものをイメージして見つけること、良い道具を見つけたら、その良い情報を皆と共有すること、が大事。

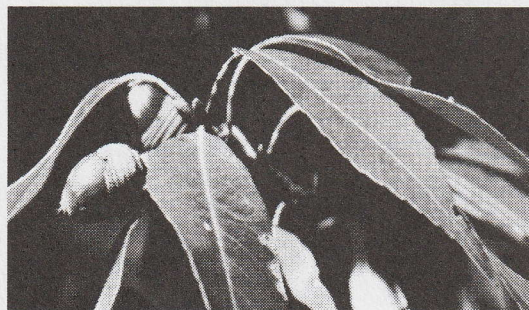
- （4）講話：標本作成の仕方（近藤さん）

気軽に簡単にできる標本作りを実物を見せながら紹介。実と種の標本を組み合わせることは、面白いゲームになったりするし、興味を持って覚えられたりする。自分たちが覚えるため、人に説明するための標本は気軽に簡単に作ればよい。サンプル瓶も調味料（塩、胡椒等）の空き瓶を活用。

但し、正式な標本は、「だれが、いつ、どこで」が大切。大学等に送る場合は、新聞に挟んでラベルを付けて送ること（by 東三河の瀧崎さん）。

- （5）図書の紹介

森のさんぽ図鑑、危険生物（観察会をする際の基礎知識として重要）、自然観察のポイント等、自然観察の勉強に役立つ図書を多数紹介。



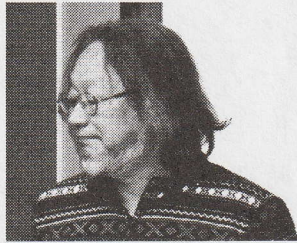
シラカシ▲

生物分類・生態研修会報告

尾張支部 山田 博一

生物(植物)分類生態研修会が11月30日(祝)庄内緑地グリーンプラザで行われました。

講師は岐阜大学流域圏科学研究センター准教授津田智氏にお願いしました。演題は「火と植物との不思議な関係」です。



今まで山火事は環境に悪いものと思っていましたが、今回の研修会では、山火事そのものが「生物にとって一つの環境要素」であり条件さえそろえば自然に優しい環境だと分かりました。

湿潤な日本は自然発火による山火事がほとんどありません。したがって木が擦れて発火することはまずありません。人為的失火ではなく雷が原因であることが多いそうです。また、自然の中の山火事は火力が小さいので小さい木が死ぬが、ほとんどの生きものは生き残り、種さえあれば散布種子でない埋蔵種子は発芽します。また、その土地で栄養生殖を行う植物はすぐに元に戻り、その土地の種ではないサルトリイバラやコナラなどの種子による生殖が一時的に植生を変化させますが元に戻ります。それに対してスギやヒノキの人工林だけの山火事は被害を受け易く、針葉樹林は再生しません。



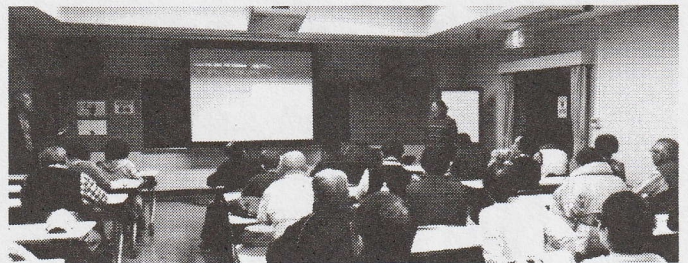
山焼きを行うと外来種が減るだけでなく栄養塩類が増え、まだ原因は解明されていませんが、花が咲くようになり花つきが良くなります。植物の中には火事を積極的に利用する戦略を立てている植物があります。また種子の発芽が増え、今までいなかった絶滅危惧種が復活しています。

野焼きは、一見熱く厳しいように見えますが、風まかせですぐに炎は通過するので、高温が継続される時間が短く、地下の温度はほとんど上昇し

ないため地表の温度が上がりにません。そのため種子や地下茎は生きています。逆に加熱処理をしたクズやヤマハギの種子の発芽率は上がります。

草原を定期的に野焼きすると、栄養塩類を増やすだけでなく、外来種がつけいることのできない環境になり外来種が減り、絶滅危惧種が増えて質の高い草原になり生物の多様性が高くなります。

それに対して、焼き畑は時速10mで焚き火をやり続ける状態なので地表の高温状態が維持され温度計も壊れてしまう過酷な状態です。その結果、地表の生物は焼死します。しかし、病害虫が焼かれ栄養塩類が増え無肥料での農業ができるので環境には優しい農業です。



最も長時間高温が継続するのが焼き畑で、温度が上がらないのが野焼き、その両者の中間が山火事(山焼き)となります。焼き畑、山火事(山焼き)、野焼きは植物が吸収した炭素がもう一度、二酸化炭素になるだけなので、結果的には二酸化炭素は増加せず地球温暖化の原因になりません。それに対して化石燃料を燃やすと埋蔵されていた炭素が二酸化炭素になって大気中に放出されるので地球温暖化が促進されるのです。

ファイアーエコロジーからみると火入れは自然再生に良い影響を与えていますが誤解されており、山焼きや野焼きをやる人は絶えず責任を追及され理解されていないのが残念です。



第9回自然観察指導員全国大会 2020at 大阪に参加して

名古屋支部 浅井 聡司 石原 則義

150名を超える指導員と一般の方、協会のスタッフ12名が集まり、自然観察会の変革を目指し、共に考え、共に創造し、濃密な時間を楽しんだ。

1日目は大阪市自然史博物館にて、シンポジウムと分科会、夜は懇親会に参加した。2日目は長居ユースホテルでワークショップを行なった。全国から集まった指導員は個性豊かでユニークな人が多く、参加した人でしか味わえない醍醐味を感じた。

現在、子どもたちの外遊びの時間が失われ、自然を体験する機会が少なくなっている。とくに、経済的にゆとりがない世帯の子どもたちは自然体験をする機会はゼロに近くなってきている。また、自然観察会に関わるユース世代の人も少なくなり、自然観察会も尻つぼみになっている。このことに自然保護協会は危機感を抱き、頭を抱えている。また、指導員にも既成の観察会だけでなく、新しい形の自然観察会を目指して、指導員が自らアクションプランを作り上げることが求められている。

私達のグループではアクションプランとして、①スーパーの中で自然観察ソムリエとしての活動②都市公園の中で参加者のニーズに合わせた自然観察執事としての活動を目指すという大胆なものであった。最後は各グループが寸劇を交えた発表会で締め括り、感心しつつ笑い声にあふれたものであった。自然観察会でも、テーマを持って、指導員と参加者が融和することを目指してゆきたいと感じた。

時間の合間に、自然史博物館も見学した。その中に「大阪の自然」のコーナーがあり、取り組みとして「友の会」があるのを知って、その役割の大きさを感じた。愛知県にも自然科学系の博物館を要望したいと強く思った。（浅井）

・生産年齢人口(15～65歳)の減少が著しく、どこもかしこも人手不足になる。特に、ボランティアを必要とする公園では、いまでも高齢化で人手不足が懸念され、ますます大変な時期を迎える。この状況を乗り越えるアクションプランが必要となる。

・子どものみならず親世代でも自然体験が少ない。今後は、貧富の差がますます広がり、経済的に余裕のない家庭の子どもが増えることが予想される。自然体験のない人が将来さらに増えることにどう対処していくのか。

・最良の指導者は自然。指導員は支援者であり演出家。参加者とともに楽しむ。相手の発見、発言を活かす。皆さんの思いや思い出を引き出し受容する。相手の良さを見つけ、引き出し、共有する。年齢・性別・立場を活かす。地域の良さを伝える、守る。リーダーを育てる。誰からでも教えを請う謙虚さを持つ。諸団体の人ともつながりを持ち、一人でも多くの人たちに、身近な自然のすばらしさを伝える。

・「自然は学びの宝庫」として、見つける、触れる、やってみる、遊ぶ、自然のすばらしさ、不思議さ、命の大切さ、子どもも笑顔、指導員も笑顔、みんなも笑顔。

・自然とのつきあい方の伝承

昔は、親から子へ 子から孫への世代間の伝承があった。今は、弱くなっているの、今後は社会として伝承していく必要がある。興味の対象は様々。思いも感じ方もそれぞれ。みんなで喜びや楽しみを分かち合い、自然と人、人と人をつないでいく、そんなことが必要かなと感じた。

10年ぶりの全国大会、今までの自分にとらわれず変わる勇気を与えてくれた、目からうろこのシンポジウムであった。（石原）

私の活動報告

名古屋支部 小笠原 芳夫

私が自然観察指導員になったきっかけは、定年を前にして高知県に単身赴任した時に始まるようです。それまでは、自然とは全く反対にビルの中や地下でばかり仕事をしていたのです。高知では街を少し出れば初夏にはゲンジボタルが乱舞し、家からすぐの山には牧野植物園がありました。休日は一人の気楽さから、そこで過ごすのが習慣のようになりました。こんな自然の近くでのんびり暮らすのがいいなと考えていたところに、妻から「早期退職したから、平和公園で森づくりの活動をすることにした。一緒にやらない？」と連絡が来ました。

名古屋に戻ってから、初めて平和公園に行ってみて驚きました。都会の真ん中に雑木林があり、いきなり頭上を鷹が飛んでいきました。

また、若い頃には昆虫採集をしていたことを思い出し、かつてハッチョウトンボや蝶のミドリシジミが乱舞していた名古屋近郊の場所を訪ねてみました。現地に行ってみると、雑木林や湿地・田んぼが広がっていたところが住宅街とホームセンター、スーパーマーケットに変わっていて全く緑が無くなっていました。身近な自然を守っていく必要性を痛感し、平和公園の森づくりの活動に加わることにしました。

平和公園で作業しているうちに、毎月、自然観察会が行われていることを知り参加してみました。子どもや家族も多く、それぞれに楽しんで観察をしていました。少しでも身近な自然を守ると同時に楽しく伝えていくことの大切さも感じるようになり、

愛知県で自然観察指導員講習会があると聞き、2013年に受講しました。

ただ、その後病気のため入院や治療でしばらく中断し、現在は平和公園と東山の観察会に、可能な時は参加しています。どちらも熱心な指導員の方たちがいますので、一参加者として、なるべく子供たちと楽しむようにしています。

これからも、身近な自然を守ると同時に、少しでも自然や生きものの大切さや楽しさを伝えていくように出来ればと思います。



▲秋の平和公園とビル街



▲せせらぎで生きものの観察

尾張支部総会報告

松尾 初

日 時：1月13日(月・祝)13:30～

場 所：名古屋市東区中部電力東桜会館

出席者：14名

尾張支部の総会は14名の参加で開かれ、令和元年度事業報告・決算及び監査報告と令和2年度の役員、事業計画及び予算が承認されました。

定例観察会は9ヶ所、不定期の観察会「稲作り体験と観察会」を実施します。

今年度は観察会で事故が1件ありました。協議会の保険を適用しましたが、後日指導員であったことが判明。指導員は各自でNACS-Jに申請する必要がありました。

一泊研修は参加者の急病等のリスクへの対応が難しいため、日帰りの研修(交流を含め)とします。

協議会に対応するための研修及び交流会については実施することとし、日時・場所等は後日運営委員会で決定します。あいちの自然観察会は、好評だった昨年に続き夏休み中に、犬山市来栖で川の生き物の観察をする予定です。ただし、他支部等からの参加がなく、参加者の募集に苦慮したことから、今年はPR方法を工夫します。

最後に協議会と尾張自然観察会との関係について、色々な意見がでましたが結論はでません。その他、観察会等の支部行事に参加する指導員が固定化している傾向がありますので運営委員会で相談し、実施することとしました。

尾張支部 令和2年度役員

会 長：松尾 初

副会長：平井 直人

事務局：内海 勇夫

会 計：霜 佳子

会計監査：木村 慎一郎

通信編集：高谷 昌志

通信発送：出口 慎治

HP管理：山田 博一

指導員全国大会分科会報告

山田 博一

分科会『個の多様性』を自然保護教育に活かせるネットワーク組織とは」に参加しました。

うまく回っている協議会は、若い人が活躍する場が与えられておりHPが更新されています。逆に、同じ世代が固まって同好会化した組織では若い人を入れただけでなくベテランがボス化し、それが群雄割拠して「高齢化による組織の停滞と疲弊」の原因になっています。そこでは指導員が周りを見ていないため人を育てる余地がありません。また高齢化した同じ年代層で構成される組織には未来がありません。生物多様性を認めるように個の多様性(世代・人間の多様性)を認めることも必要です。

協議会の運営に努力してきた事務局は疲弊してきています。しんどい事務局をみんなで助けている協議会はいまありません。この活動は本来楽しんでやる活動です。無理なら事務局は辞めたら良いと思います。

成功した大分県の事例を紹介します。ここでは、まず県と協議会が組んで、県のシステムに観察会が組み込まれており、報償費と保険料は環境税を使って予算化されています。小・中・高など学校対象の自然観察会を1ヶ月に6ヶ所やります。森の先生一人で子ども約10人の観察会を行い、子ども一人が必ず一度は自然観察会を経験できるようにしています。指導員の日当は2時間で8000円、事務経費も環境税から出ているため動きやすくなっています。

ここの協議会は会報や会費はありませんが、観察会の下見や本番、予備日に必ず顔を合わせていますので、指導員同士の風通しが良くなって意思の疎通ができています。メールなどに頼らないでお互いに会うのが一番だと言っていました。重鎮だけでなくいろいろな人が活躍できる機会を与えると組織が活性化するそうです。

日 時：令和元年11月23日(土・祝)13:30～ 場所：愛知県教育会館
出席者：浅井、三田、石原、永田、新山、山田、瀧崎、松尾、滝田、榊原、星野、河江

◆活動報告(8月～11月)

・あいち自然観察会、研修会、(協議会ニュースNo.165号P4～P6)

・自然観察指導員講習会 日本自然保護協会との共催

日 時 2019年8月31日(土)～9月1日(日)

場 所 「美浜少年自然の家」 愛知県知多郡美浜町大字小野浦字宮後1-1

講習会57名 スタッフ 11名 ミニ観察会12班(連絡会11名+NACS-J職員1名)

7月28日(日) 13:00～17:30 スタッフの打合せ(美浜少年自然の家)

朝のオプション観察会 3グループに別れて実施(海、森、展望台の散策)

県内42名、県協議会加入22名 (協議会ニュースNo.165号P2)

・新指導員対象自然観察会

日 時：2019年10月13日(日) 10:00～12:00

場 所：名古屋市緑区大高緑地 内容：虫の仕業とその犯人

講 師：山田 千宏氏 参加者11名(新指導員6名) (協議会ニュースNo.165号P3)

・協議会交流の日

日 時：2019年11月4日(月、祝) 9:50～15:00 担当：名古屋支部

場 所：庄内緑地公園(名古屋市西区山田町) 集合場所：庄内緑地グリーンプラザ前
ネイチュア・フィーリングによる自然観察、昼食休憩(ピクニック広場にて)、交流会、
各支部の活動紹介 標本作成、観察の七つ道具やお薦めする本などの紹介。

参加者34名(新指導員は12名) (協議会ニュースNo.166号P4)

◆議案

＜主な確認事項など＞

生物分類・生態研修会	演題「火と植物との不思議な関係」 講演者：津田 智氏 岐阜大学流域圏科学研究センター准教授 (協議会ニュースNo.166号P5)
総会・記念講演会	3月20日(金・祝)受付 13:15～ 13:30～16:30 名古屋市中心企業振興会館4F 第3会議室(講演会場は同じ) 講演者：川田 伸一郎氏：国立科学博物館 動物研究部脊椎動物研究グループ主幹 演題「モグラの分類と生態」(協議会ニュースNo.166号P2)
アクションプラン①	次世代育成のための指導員リーダー養成講習会 日時 2020年5月16日(土) or 5月15日(金) 予定。指導員内の新人とベテランを20名程度募集。 (協議会ニュースNo.166号P3)
アクションプラン②	県協議会として、自然観察で「砂浜の保護」をアピールしたいと東三河支部に呼びかけたところ、承認を得たので、5月31日(日)表浜海岸で自然観察会を行う。(協議会ニュースNo.166号P3) 詳しいことは、後日連絡。
協議会交流の日	尾張支部 検討中
編集	協議会ニュースNo.167号からの私の自己紹介は、支部自慢とする。

新指導員紹介

- ・名古屋支部 和佐田岳男：自然には以前から興味があります。素直に自然の不思議さや驚きを体で感じたいと思っております。

【事務局だより】

<編集後記>

2020年1月25日(土)～26日(日)、大阪市自然史博物館と長居ユースホステルで、10年ぶりに開催された指導員全国大会には、指導員他、地元大阪自然保全協会会員はもとより、全国から150名を超える人が参加しました。日本自然保護協会からは、13名のスタッフ、愛知からも県協議会代表ということで、事務局他2名が参加しました。25日(土)の第1部10:30からは、講堂でシンポジウム。これまでの指導員活動の成果を踏まえて、自然保護教育活動を取りまく、これからの社会状況が話されました。5名の方から、これからの10年、高齢化、身近な自然で生物の地域絶滅が進行、経済格差によって自然体験のない人が将来さらに増える、組織や団体に属さずとも、個人で活動しやすい社会になっていく中で、仲間である自然観察指導員を増やすにはどうしたら良いかの発言がありました。

第2部14:00からは、「多様なアイデアで社会に自然体験をあふれさせよう!」とネイチュアホールで5つの分科会に分かれ、問題点を出しあいました。夜は、懇親会。2日目は、9:00～15:00まで、長居ユースホステルの多目的室で、ワークショップ「新しい自然観察会活動のアクションプランを作ろう」と11のチームに分かれてアクションプランを作り、寸劇を交えて発表しあいました。総会では、指導員全国大会のまとめを配布する予定です。(石原)

指導員全国大会 風景 (写真提供 山田 博一さん)



シンポジウム



ワークショップ



記念撮影

編集スタッフ	石原則義 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail : norimameobata@yahoo.co.jp Web Page : <http://naichi.net>
郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)